

2023年日本建築学会奨励賞 候補業績の応募・推薦

2023年日本建築学会奨励賞候補業績を下記の要領によって公募し、すぐれた業績を表彰いたします。

会員各位には、下記募集要領をご参照のうえ、期日までに、審査のために必要な資料および表彰に値する説明書を添付のうえ、ご応募またはご推薦方お願いいたします。

2022年8月
一般社団法人 日本建築学会

募集要領

新進の研究者による、近年中に発表された独創性・先駆性・萌芽性・将来性のある建築に関する優れた論文等の業績を表彰いたします。

1. 候補者資格

審査対象業績の業績発表の時点で本会正会員（個人）かつ満40歳未満の者。ただし、この制度によってすでに賞を受けたことのある者、また過去に学会賞（論文）を受賞した者を除く。

2. 業績

2019年1月より2021年12月の間に発表された、建築に関する優れた論文等（日本建築学会 [各系] 論文集、技術報告集、JAABE、JAR（原著論文）、本会以外の刊行するImpact Factor付きの英文学術誌に掲載されたもの1編）であって、応募者に帰属する業績。ただし、筆頭著者に限り、一人1編とする。

3. 審査の対象

- (1) 会員が応募したもの
- (2) 会員が推薦したもの
- (3) 支部が推薦したもの
- (4) 研究機関・団体、および職場が推薦したもの

4. 審査の資料

- (1) 候補応募申込書 1部（書式 <https://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2022/2023b.docx>）
- (2) 候補論文 3部（コピーでもよい）
- (3) 業績説明書 1部
- (4) 審査の必要上さらに詳細な資料の提出を求めることがある。ただし、資料の作成費は本会は負担しない。

なお、他薦の場合は推薦理由書を添付のこと。

5. 業績説明書

業績説明書は、下記について1,500字以内（A4判1ページ以内厳守）で候補者自身が説明したもの。

- (1) 当該研究分野や隣接分野の発展現況の概説
- (2) 候補論文の位置付け、成果の意義などについて、例えば、次の観点のうちのいくつかを選定して、当該分野に貢献したと主張できることの説明
 - a. 高い国際的水準の業績
 - b. 新しい領域・方法・概念の開拓
 - c. 豊かな独創性・先駆性・萌芽性・将来性
 - d. 卓越した緻密さ・丹念さ・努力
- (3) 連名の論文の場合は、応募者の果たした役割

6. 応募締切

2022年10月4日（火）17:00（必着）

7. 表彰

- (1) 論文の業績を対象とするが、賞を受ける者はその業績をあげた正会員（個人）とする。
- (2) 賞は「日本建築学会奨励賞」と称する。
- (3) 「日本建築学会奨励賞」の表彰は、賞状・賞牌および賞金を贈る。
- (4) 表彰は2023年度大会会場で行う。

8. 審査方法

- (1) 審査は日本建築学会奨励賞選考委員会が行う。
- (2) 日本建築学会奨励賞選考委員会において厳正な選考を行い、これに基づいて授賞論文を決定する。その際、分野を横断した論文、新しい領域、境界領域の論文についても十分に配慮する。

9. 審査資料の取扱い

- (1) 審査資料は、日本建築学会奨励賞選考委員会宛に送付または持参する。

提出先

〒108-8414 東京都港区芝5-26-20

一般社団法人日本建築学会

奨励賞選考委員会宛

- (2) 審査のため提出した資料は返却しない。

2023年日本建築学会奨励賞選考委員会

委員長 楠 浩一（東京大学地震研究所教授）

幹事 橋本 都子（千葉工業大学教授）

濱崎 仁（芝浦工業大学教授）

委員 秋月 有紀（富山大学教授）

小笠原正豊（東京電機大学准教授）

河田 智成（広島工業大学教授）

吉敷 祥一（東京工業大学教授）

工藤 和美（明石工業高等専門学校教授）

小林 正人（明治大学教授）

小檜山雅之（慶應義塾大学教授）

柴田 建（大分大学准教授）

高田 真人（熊本大学助教）

瀧澤 重志（大阪公立大学教授）

竹村 明久（摂南大学准教授）

土田 寛（東京電機大学教授）

永井 香織（日本大学教授）

那須 聖（東京工業大学准教授）

野田 満（近畿大学講師）

樋山 恭助（明治大学教授）

松山 賢（東京理科大学教授）

室田 昌子（東京都市大学教授）

安野 彰（日本工業大学教授）

山本 憲司（東海大学教授）

吉中 進（早稲田大学教授）